

これは、今靖国通りになって
いるわけですが、昭和通りと
靖国通りで十文字を造って、
あとはそれに適切な間隔で、
平行する幹線を東西南北に造
っていきこうというのが、東京
の都市計画の基本なわけです。
それは受け継がれております。

定着しなかった「大正通り」
名前が公募されまして、幹
線第一号は昭和通りで、第二
号は「大正通り」という名前
がついたんです。でも、それ
はなかなか定着しませんで、
今は「靖国通り」といわれて
いるわけです。

幾つかの幹線、例えば横町
線という、これが東京駅の今
の「八重洲通り」で、大丸を
もうすぐ壊し始めますが、そ
こに突き当たる「八重洲通り」
は帝都復興でできたわけです
が、あれは最初から最後まで、
やはり正面を向いた、東京駅
にズボッと行く道を造るんだ
ということはお変わりしており
ません。もともとは、ご承知の

ようにこの京橋から日本橋、
銀座にかけての通りはこの南
北といいますが、この軸が中
心で、東西といいますが、こ
ちらの向きは非常にマイナー
なわけです。そちらに大きな
道がなかったわけですが、そ
れをここで造ったわけです。

同時に東京駅の丸の内側で
すが、このあたりが白っぽい
のは、三菱がすでに造ってお
りましたから、それには手を
つけなかったんです。ただ、
東京駅の目の前のこの部分、
今の「行幸通り」といわれて
いるところは、ここに千代田
堀がまだありましたので、あ
そこまですりなかつたんです。
その堀を埋めまして、皇居に
つなげた。これは幅員が七十
二メートルという、全体の中
で一番道幅が広い道ですが、
ここは帝都復興事業です。

ですから、今の「八重洲通
り」今ちょうど整備がやられ
ているところですが、あの通
りは二つに分かれて造られて
います。

いるわけです。三菱側、丸の
内のオフィス街として造った
部分と、帝都復興で造った部
分。ですから、ここは生きて
おります。国会議事堂に向か
うこの道もできています。道
です。ですから、できては道
も多い。

「復旧」ではなく「復興」
では、どこが違うかとい
いますと、このあたりが焼け止
まりの線なんです。これが、
西側まで道路を造ろうとし
た。つまり、震災復興が非常
にユニークなのは、復旧では
なく復興だと先ほどありまし
たけれど、復興というのは後
藤新平が言い出したことなん
です。

何が違うかという、復旧
というのは前と同じものをつ
くりませんが、復興とは前より
もいいものをつくるという話
です。これは、阪神淡路大震
災のときも復興といっており
ましたけれど、今からみると
当たり前だが、この機会だけ

ら、それをやるべきだとい
うことは、われわれからすると
当然だと思いますが、当時、復
旧することも大変なのに、お
金がかかるのに、復興すると
いうことは、別のところの予
算も削ってこちらにつけると
いう話ですから、仲間内を全
部敵にするわけです。つまり

「その予算も、こちらのほう
が大事なんだから、こっちに
くれ」ということをやるわけ
ですから、それはなかなか中
でも合意が取れるとは必ずし
も言えないようなことなんで
す。そういうことをやろうと
したわけです。

これは先ほどの「靖国通り」
ですが、靖国通りも九段坂を
上った先からは震災に遭って
おりませんので、こういう道
はなかったわけですが、それ
を造るとか、「六本木通り」、
「桜田通り」を造るとか、当
時、震災に遭っていないとこ

ろまで道路を計画する。一番
外側は「明治通り」ですけれ
ど、「明治通り」を大きな外郭
線、環状線としてこつちまで
行きますが、造るといいうこと
を考えたわけなんです。だから、
そのあたりが非常に違ってい
て、あとはうまくいかなかった
わけなんです。

あとは、万世橋のところは、
非常に大きな駅前広場を造ら
うとしたり、上野駅のところ
に広小路から上野駅にかけて、
やはり非常に大きな広場を造
ろうとした。

これは公園です。これでも、
震災直後にこういうものを造
ったわけですが、なぜこんな
ことができたか。非常に混乱
しているときに、こんなこと
が急にできたのは、ご承知の
とおり、彼が東京市長のころ
に「八億円計画」といわれて
いる計画を立てて、この原形
になるものを作っていたわけ
です。ですから、それがあつ
たからできたわけです。

つまり、事前にちゃんと準
備していたわけで、彼は大風
呂敷といわれていますが、大
風呂敷というのは八億円とい
うのが、当時の東京市政は年
間予算が二億円なかつたころ
だと思えますので、そのころ
に八億円もかけるという案は
予算的には非常にオーバード
と。ただし、やろうとしてい
ることは、道路を造り上下水
道造るといふことなので、
非常にまつとうなことをやる
うとしたわけなんです。

そういうものを、きちんと
した調査の下に東京市政調査
会を作ったしていた。ちゃ
んとプロフェッショナルを集
めていたということがあつた
ので、こういう災難があつた
ときに、すぐに計画が立案で
きたということなんです。

上野駅の駅前広場も、縮小
されましたけれど、こういう
形でできたわけです。

「乙案」予算を削られても残った骨格
これが乙案と呼ばれている
もので、これは総工費が九億
六千万円のもので、

「昭和通り」と「靖国通り」
は、道路の復員を狭くしたり
という違いがありますが、先
ほど言いましたように、メイ
ンの骨格は残っています。
ただ、細かく見ると、例え
ば「蔵前橋通り」ですが、「蔵
前橋通り」はこういう形では
実現していないんです。とい
うことで、少しずつ線形が違
つたりしていることはありま
す。

これは太田圓三さん、土木
の大先輩であります。その
方の遺品の中から見つかった
図面で、どういうふうな位置
づけるかということ、これ
から待たなければいけません
が、この図面が面白いのは、
線形をいじったりするさまが
生々しいんです。このように、
ちよつと道路の線形をいじつ

てXを付けたりしています。
この通りのあたりとか、これ
は「本郷通り」のところが今
はこう行っていますが、ここ
のところもこつち向きにいこ
うとして、聖橋ではなく御茶
ノ水橋を渡ろうとしたり、細
かいことを試行錯誤しながら
検討した様子が生々しく分か
るわけです。

そして第六案。これはかな
り最後の方の案で、ほぼ幹線
のネットワークはこれに近い
形で作られたというものです。
「こらんだだければ分かり
ますが、幹線の番号が書いて
あつたりするので、かなり最
後に近い案なわけです。でも、
これでも非常に面白いのは、
例えば「靖国通り」はまつす
ぐなんです。今はこうなつて
いませんね。「靖国通り」は、
御茶ノ水のところでぐるつと、
ちよつと彎曲しているわけで
す。一番最後のところで、こ
ういう形で彎曲しているん

です。

よく見ていくと、どこをあ
きらめて、どこにこだわつた
かということがわりと分かる
わけです。恐らくは、これが
御茶ノ水から駿河台ですね。
明治大学のあたりで、尾根で
すから、尾根をまつすぐ突っ
切るとなると、工事としては
かなり大変だということ、そ
こは地形に合わせて、そで
のところをずっと回るように
したと思うんです。ですから、
そこところは譲っているん
です。

だんだん上野の駅前広場が
小さくなって、万世橋の駅前
広場は、結局なくなつてしま
つております。ただ、東側の
道路のネットワークはほぼそ
のままです。「三つ目通り」、
「四つ目通り」「明治通り」は
同じです。「清澄通り」なども、
ほぼそのとおりに造られてい
る。「新大橋通り」ですね。「晴
海通り」そのものは、市区改
正のときに造つた道路ですが、
それを今回拡幅するというこ

とです。「水代通り」は新たに
造るといふことで、かなり造
られています。

ただ、先ほどのように「蔵
前橋通り」は、ずっと延々と
行くことになっていますが、
ここのところは譲っています
ね。これを見ますと、「蔵前橋
通り」はズドンと後樂園まで
行っています。本当は、この
後、後樂園の中を突っ切つて
行くわけですが、そのところ
ろが止まってしまっている。
ここが、「本郷通り」と「蔵前
橋通り」が交差するところで、
渋滞が起きるといふことで、
本当はここからまつすぐ通す
予定のところがなくなつてい
るところなんです。

これは「六本木通り」でこ
こが「桜田通り」ですが、こ
このところは色がちよつと変
わつております。これはたぶ
ん位置づけを変えて、これは
願望にしたんだらうと思いま
す。この後、「明治通り」は外
側に点線に書かれていて、こ

とです。

ここに部分的に写っており、
けれど、ということ、やり
たいけれど今回はあきらめる
という路線として、描かれて
いるのではないかと思います。
ただ、この国会議事堂に行
く「議院通り」といいますか、
これなどが、ちょうど正面を
向かって突き当たるというこ
とは表現しているんです。

震災復興区画整理の特色

この図面は、最後のところ
で全体の計画案がまとまった
後で、それをもう一回、図面
の中に落とし込んだもので、
こういう形できたということ
ですが、やるがこの内側
だけに限定されてしまったわ
けです。非常に広い範囲で明
治通りを造ろうとしたのは、
その後の課題に持ち越される
ことになりました。

しかし、これだけの部分の
幹線道路を非常に短期間に、
七年間で造り上げたわけなの
で、それは驚くべきことであ
るといふことはいえるわけだ
と。

おります。
というところで、いわゆる、
建築を中心に、建築のモニ
メントが都市を規定するとい
うパロディ的な形になってい
ないのは、恐らくはこういう
造り方で、土地区画整理が都
市のベースになったからだ
と思います。短期間でやるわけ
ですから、やむを得ないとこ
ろもあるわけです。

後藤新平の強い意志

集めた人材とその成果

具体的にどういうものを作
っていったかというところ、こ
れは帝都復興事業後に撮った写
真ですが、八重洲橋より越前
堀にいたる路線の一部という
ことです。「八重洲通り」もし
くは「植町線」ということで、「八
重洲通り」になるところで、
その幅の真つ最中の様子です。
ここは、こういう形で「八
重洲通り」ができるわけだ
と。ここに、電線の地下埋設も実
現しているわけです。ですか

ただ、日本のこの震災復興
の区画整理の特色は、一つは
全面的に新しい道路にはして
いないんです。もともと城下
町ですから、基本的にはグリ
ッドパターンがあった。その
グリッドパターンを、尊重し
ているということが一つです。
もう一つは、そこまで計
画路線があつたわけですが、
その計画路線は一応尊重する
ということをやっております
から、全く機械的にグリッド
に引き直したわけではないの
です。そのことが、逆に同じ
格子状でも、少しずつ場所
によって格子の向きが違つたり、
大きさが違つたりするとい
うことになってきているわけ
です。ですから、日本の都市は、
基本的にはこのあたりはグリ
ッドできていますが、アメ
リカのグリッドのように、単
調なグリッドではないわけ
です。将来的には、環状線を造
るといふことが構想の中にあ
りましたので、そういうこと

ら、部分的ではありませんが、
このころから地下に電線を埋
めることも実現して、並木も
これはダブルで植わっている
わけです。ここに並木
があるので、ダブルで並木が
植わっている。こういう道の
ことをブルバールというわ
けですが、日本にもブルバ
ールが生まれたわけです。こ
れも、幹線第七号ですので、「八
重洲通り」ですが、こういう
道が忽然と生まれました。

その背景には、後藤新平が
日本の街を欧米列強に恥ずか
しくない町にするという、非
常に強い意志と、それができ
る優秀な人材を集めていった
ということがあると思います。
これが「昭和通り」です。

「昭和通り」は、こういう形
で真ん中にその後市電を入れ
る。この下に、地下鉄を入れ
るといふ計画で造られている
わけです。現実的に、このこ
ろは今は立体交差になつて、
並木も切られてしまつて

も含み込んでいる。
でも、基本的には道路でグ
リッドを造っていくというこ
とで、モニメントの建物が
あつて、それに向かつてドン
と突き当たる。つまり建築が



復興街路一覽圖

いるということ、このとき
にできたかなり豊かな都市空
間は、その後都市化の中で犠
牲になっているわけです。

これは、後で絵葉書になつ
ているものです。当時は、東
京の大東京を写している絵葉
書はけっこうありますが、今
考えてみると、東京のこうい
う通りを撮った絵葉書はほと
んどないです。つまり絵葉書
にならない、絵にならない街
になってしまった部分もある
のかもしれない。確かに、こ
れなどは魅力があるわけです。
今のは道路ですが、それだ
けではなくて、もう一つは復
興公園です。公園を、造つて
いったわけです。公園も大き
な公園、浜町公園、墨田公園、
錦糸公園という非常に大きな
公園と、小学校と一緒に併設
された小さな公園が五十二と
いう、二つのセットで造られ
ているわけです。これも、非
常にユニークな計画です。
これは、当時できた墨田公

都市を造っていくというこ
ろが非常に弱いわけです、東
京の都市計画には。幾つかあ
るとすれば、ここにあるよう
な国会議事堂に向かつて道を
造るとか、この道ですね。植

園の一部で、墨堤といわれた
ところを、もう一度桜を入れ
て、リバーサイドパークとい
うものを造つたわけですが、
これは日本のリバーサイドパ
ークの発祥なんです。これま
で、リバーサイドに人が来て、
水辺に接するようになるところに、
公園があるというところはな
かったわけです。ですから、
リバーサイドパークができた。
ここは大変人気があるところ
で、よく人が散策するような
ところがあるわけです。その
後、これが絵葉書になって、
こういう形で非常に人気があ
る空間になっております。

同時に、この隅田川でボ
ートをやるようにするん
です。今は、例えば早慶レガ
タとかをやりますが、ここに、
大学や旧制高校の艇庫を造り
まして、ここを水上スポーツ
のメッカにするわけです。こ
れは、陸上スポーツのメッカ
が神宮外苑で、それに対応す
る水のスポーツのメッカを造

町線「八重洲通り」みたい
に、東京駅に向かつて道を造ると
か、それぐらいであまりない
わけです。もちろん、神宮外
苑の道などがありますが、神
宮外苑の道はその前にできて

ろうとしたんです。ですから、
そういうこともやられていた
わけです。
残念なことに、今はここに
首都高速が載っているわけ
です。ですから、この部分の造
られた公園のかなりの部分は、
首都高速の足もとになってし
まっています。

これは山下公園です。山下
公園はご承知のとおり、横浜
のほうで東京より被害が大き
かったというぐらいに、震災
の被害が非常に大きかったわ
けですが、そのがれきを埋め
て造った公園なわけです。こ
れは、今度はシーサイドパー
クで、リバーサイドではなく
シーサイドです。このように
海辺に造つた公園としては、
この山下公園が日本の最初に
なるわけです。
これは模型ですが、墨田公
園の模型です。墨田公園は、
隅田川の両側に公園として造
つたわけです。非常にユニ
クなのは、ワンドのようなも

のを造ったり、これは今上流から下流を見ているところ。残念なことに、この上に高速道路が通って、このあたりは区の体育館などになってるところです。

取り戻したい上野公園

京成口の景観

そのほか、それまでの既存の公園の再整備が行われました。これは上野公園の、京成の入り口がここです。ですから、こちら側がJRの不忍口で、今あるところですが、こういう形で、このところは駒形橋通りとっていたようです。これも拡張して、そのときにこのあたりの整備をし直して、そこがやはり絵葉書になっておりまして、これは大変にぎわっている西郷さんがあって、先ほどのところは、これが震災復興のときにできた部分です。みごとな階段です。

今はどうなっているかといいますが、今はこういうレスランなどになっておりまし

て、立退き交渉がこじれているところですが、わたしはぜひこのところは、震災復興当時の感じにならないものかと思うんです。せつかく震災復興のときに、これだけみごとな緑があるのに、震災の間市をここに押し込めたという経緯もあって、こういうことになってしまっているわけです。

今は、ちょうど改築の時期にきているので、できれば中にどうしてもいたいというのであれば、中に入ってもらってもいいけれど、外側はあいう形にしてみたら、こういうものが見えないようにできたらと思います。

というところで、いつてみれば、上野の戦後がまだ残っているという姿ですけれど、ちょうど横浜がベイサイドパークといいますが、三菱のドックを公園にして、今はあれが重要文化財になっておりますが、あれはあの裏側にレスト

ランがズラツとありますが、石で見えないんです。石を全部はずしてレストランを造って、もう一回石を戻して今の公園にしているわけです、みなとみらいの整備のときに、ああいう感じで、これを中に入れて、外側は先ほどのようにすると思いいますが、何とかならないものでしょうか。

という形で、東京オリンピックを目指して、今上野公園を再整備するというところで頑張っているしやるので、「何とかならないのか」と言っているんですけれど、その前にこじれているようなので、まだそもそも先に進むのに時間がかかりそうな感じがします。

残したい元町公園

今のもので大きな公園で、そのほかに小さな公園があるわけです。これは、この展覧会のために新たに作られた模型で、元町公園といわれている、こちら側に外堀通りがあ

って、こちら側が水道橋の駅、お茶の水の駅がこちらで、中央線に乗りますと、お堀の向こう側にこの緑が見えます。ここに元町小学校があります。こういう形で今も残っているんです。

実は、復興小学校と復興公園がセットになったものが五二造られました。両方セットで残っているのはこれしかありません。非常に重要な公園であります。今これは存亡の危機にありまして、ここも子どもたちが少なくなっているのが学校が使われていないんです。

こちら側の公園のところも、文京区が別のところにある体育館を建て替えて、ここに建て替えるということ、これは都市計画公園ですが、都市計画公園のこちら側をつぶしまして、こちら側を公園にして、こちら側の公園を廃止して、ここに巨大な体育館と、近くの順天堂大学とジョイン

トで、PFIで何かを建てようという計画がありまして、ここが都市計画決定を廃止する寸前までいったんです。その段階で、やはりここは公園として非常に重要ではないかということ、いろいろな学会や市民の方から声が上がってきて、また、ここは唯一両方が残っているところなので、これは文化的にも非常に重要ではないかということ、実は文京区の都市計画委員会が、三回にわたってこの問題の決定を延ばしまして、最終的に都市計画変更の諮問の答申を出すのを止めました。東京都内では珍しくて、日本

の中でも珍しいのではないかとありますが、東京都の同意書はありますが、区としてはやらないということ、これをどのようにやり直すかということ、これからもう一度考え直すことになりました。ごらんになって分かりますように、震災の後に造られた

公園と学校のセットなので、学校を道路側にコの字型に造って、中に子どもたちや周りの人が避難してきたときに、避難してきた人たちが火災から守るという思想があるわけです。ですから、道路側に建物を建てて、中に広場、運動場を持つ。そして、必ず鉄筋コンクリートにするというところで、木造は一校も建てなかつたんです。

これも、当時はとにかくお金がないときですから、一刻も早くということであれば、木造を建てれば早く早く、たくさんのができたわけですが、それは絶対にやらないということ、すべて鉄筋コンクリートです。なおかつ、これはインハウスで設計されているので、東京市役所の中の設計部隊がすべての建築を設計しているんです。これは橋も、この公園もそうですが、すべて中でやって、外注のコンサルタントが育っていないな

ったこともありすが、すべて市役所の中で、今の都庁の中でやられたわけです。

同時に、こちら側が一〇〇〇m²ぐらいの小公園で、これではちよつと分かりにくいですが、周りにはかなり木を厚く植えまして、これで火災から中を守り、そして、こういう自由広場を持ちまして、五〇〇m²ぐらいの自由広場を持つて、ここが行き来できるということ、子どもたちの運動場にもなるし、放課後にはこちら側が、市民に開放されるという使い方ができるという思想で造られているわけです。しかし、戦後はなかなか子どもたちにとつて危険があるとか、ここで事件が起きたりしまして、今はここが行き来できなくなっています。その後、大半の学校は建て替えて、こちら側にプールを建てたりして、ここが切れているものが多いですが、

ここは残っている。

それから、特に元町小学校でユニークなのは、こういうふうな段差があるので、段差を使って階段で登って、パラゴラがあったり眺望が利く。段差が何段かになっているという、そういうユニークな造り方をしているのが特色なんです。これは入り口で、まさに邸宅みたいなものです。お屋敷に、入るような感じで建物に入っていく。そして、こちらにはちよつと噴水があったりするといいものが、今でも残っているんです。これは、早く名勝か何かに指定して守るほうがいいのではないかと。最終的に、ここに体育館を建てると言った文京区としても、このあたりは残すという計画だったんです。九〇〇m²ぐらいは残すというのでしたが、なかなか。周りと、こちら側の緑が厚くなって、こちら側で守るといいう形になっていきます。こういうも

のを造っていったわけです。

それから学校ですね。これが、教育施設の一例です。すべて、モダンイズム建築です。そこが、また非常にユニークなところで、小学校建築は全部こういう形の、当時の表現主義的な曲線をたくさん使っています。いってみればアールデコ風といいますが、それで造られていて、子どもたちの衛生上にいいということ、窓を非常に大きく取って明るくして、アールを多用したような学校建築を造った。大半が、こういう形で造られておりまして、これは銀座の泰明小学校です。幾つか残っております中で、一番活きて使われているのは、九段小学校でありまして、こういうものが今も残っております。目の前の公園とセットで今使われて、大変雰囲気がよくて、まだ壊すということもなく、今も使われ続けています。どれも、非常に当時として

は斬新な、モダンなデザインで造られている。その一つに

は、子どもたちにいいデザインのものを見せたいという、佐野利器という東大の建築の教授が、復興局の局長も兼ねて、建築を全部のこういうものを造っていったわけです。非常に実験的に、コンクリートの権威だったということもありまして、耐震のもの、耐火のものを造っていく。それが地域の拠点になって、同時に、それが教育の拠点にもなるということをやっていたわけです。そのほか、あまり知られておりませんが、図書館も復興図書館ということで、モダンな図書館が造られました。こういうものが造られていったわけです。これだけではなく、もちろん有名な住宅として、同潤会の住宅が造られていったわけです。

景観と橋

それから、橋です。これは

こが皇居ですから、その雰囲気はお分かりになると思いますが。このへんは、まだ住宅が建て込んでいないという感じになっておりますが、細かく見ると鉛なんです。すこいでしょう。これそのものが、もう作れないと、模型を修理している人たちが言っています。これは不忍池です。博覧会などの建物があつたみたいで、わたしはこのあたりは、動物園もいけれど、こういうふうになって、このあたりをぐるっと回れるといいと夢想しているんですが、なかなかそつうもいかなかったですか。

これは本郷通りで東大もあります。面白いことに安田講堂の形が違っているんです。ドームで、安田講堂はこの後に建ちましたので、また模型を作っているときには、デザインが決まっていなかったのだと思います。これは、まさに昭和通りです。

待たれる第二、第三の後藤新平

そういうことで、後藤新平がやった計画が、今の目から見たらどうなのかということを中心にご紹介しました。先ほどもしやりましたように、こういう非常に大きな計画を、非常に短期間にやった。その背景には周到な準備があつて、なおかつ非常に大きなたぐさの人材を高給で遇してやってもらったということです。

なにせ、後藤新平が帝都復興院の総裁にいたのは、二十三年九月一日に震災があつて、二日に内務大臣になるわけですから。そして、内務大臣になつてすぐに、復興のための国の組織をつくつて、国費でやらなければいけないということをやつて、復興院をつくられたのが二週間ぐらい後だと思つて、次の年の一月までしかや

違ふスタイルの橋がかかっているわけですね。このうちのかの部分は、重要文化財になっていまして。

保存運動で残つた震災復興記念館

これは、震災復興記念館という建物で今も残つておりますが、これは両国の横網町の旧被服廠跡に今も残つていまして。慰霊堂が左側にありまして、これは、都の管理の建物ですが、一度これを壊されそうになりました。わたしたちも保存運動をやつたことがあります。これをぶつ壊して、署名を集めたりして、保存の要望を行いまして、無事に今も残つております。

この建物には、震災復興のいろいろな資料や模型が飾られています。先ほど言いましたように、昭和五年に震災復興のお祭りがあつて、そのときに模型やいろいろな展

示パネルがありました。それらを収容しているんです。それが、ほとんどそのままなんです。維持・管理されていないというか、保存されていないというか、見てください、これを。東京市の復興の様子といいますが、これそのものが文化財みたいなところがあります。これはタイムスリップしたみたいな感じがします。これはこれでいいのかなとも思いますけれど、道路の復興の図面とか。先ほど言いました、これも最初にこちらに入りました復興事業の内容の図面も、この建物の中にあるものです。

これなどは、手書きで書いてあります。そのほかに絵があつたり、じっくりこちらになると、大変面白いものが多いんです。今は、なかなかここまで力がこもつた模型はありません。

ただ、後藤新平展覧会がその後郷里の水沢に回るとい

ことを書いておりました。彼は、もともと全面買取方式でやろうとしたんです。これをすべて全面買取で、道路を全部造つて、適正な価格でもう一度売り渡すということをやりまして、地主には儲けがないわけでありまして、そういうことを考えた。

実は、後藤新平はそういうことを今までやってきていたんです。それを。台湾でもやりましたし、満州でもやってきました。ですから、彼には経験があつたわけです。台北の東側の主要な部分、高雄の南側の主要な部分は、彼の計画の下に造られております。満州でも大連とか奉天(今の瀋陽)のような都市は、彼が総裁としてビジョンを描いて造らせているわけです。

その経験があつたので、彼は本場に短期間のうちに、焼け野原になつた東京を見たときに、ビジョンを湧かせることができたわけです。ちゃん

と法律的なバックもあるし、ノウハウもやり手の部下を、アメリカからピアードという当時の一流の行政学者を呼んで、例えば「道路の計画ができるまでは建物を建てさせるな」というアドバイスを受けて、すぐにそれを実行するということをやりました。

こういう人が出たことが、東京の骨格をつくつたと思います。ですから、第二、第三の後藤新平が出ないと、その前にまた空襲があつては困りますが、新しい東京を、オリンピックがそうなのかもしれないが、何か再生のための次の一歩を、新しいビジョンの下でやる必要があるのではないかと。ずっと長いこと後藤新平の遺産で、食い続けていくわけにもいかないのではないかと。これが私の感想です。

聖橋ですが、こういう震災復興橋梁といわれているものが、合計四二五本造られたわけですね。これは、山田守という建築家を起用して造つた非常にモダンな橋です。これがなぜ聖橋というかというと、この橋をわたるときに、ニコライ堂と湯島聖堂の両方があるからで、それが見えるからなんです。

ところが、残念なことに、今ニコライ堂がこの姿では見えないんです。これは、本当に今から考えると失敗だと思つて、ここに再開発ビルがドンと建っているんです。何とかめがね店のビルが建つていますが、今から思うと、ちよつと下がって建つとか、ここからのビューだけは守るとか。最近では景観条例を東京都も改正して、幾つかのビューを守るということをやつておりますが、ちよつと前に、せめて聖橋というぐらいですから、ここからこの景色が見られれば素晴らしいと思

いますが、重要文化財なのでこれは壊れませんが、目の前にビルが建つているので見えないんです。

手前のビルはこれより寿命は短いでしょうから、あと二十三十年も建てば、建て替えるの時期が来るかもしれませんが、そのときはせめて、あれが見えるように手前側を考へるとか、そういうことを少しずつでもやられていく必要があると思つてます。

これは御茶ノ水橋ですが、橋は一つ一つデザインを変えているんです。もちろん、都心のところの震災復興橋梁といわれているものと同じですが、大きな見どころになる橋、特に、海から上がっていくときに、最初に見えるような橋は非常に立派な橋で、アーチがかかっている橋が多い。その橋に関しては、例えば隅田川にかかっている橋は、デザインのコンペを市民に募集してやつたので、一つ一つ全部

示パネルがありました。それらを収容しているんです。それが、ほとんどそのままなんです。維持・管理されていないというか、保存されていないというか、見てください、これを。東京市の復興の様子といいますが、これそのものが文化財みたいなところがあります。これはタイムスリップしたみたいな感じがします。これはこれでいいのかなとも思いますけれど、道路の復興の図面とか。先ほど言いました、これも最初にこちらに入りました復興事業の内容の図面も、この建物の中にあるものです。

これなどは、手書きで書いてあります。そのほかに絵があつたり、じっくりこちらになると、大変面白いものが多いんです。今は、なかなかここまで力がこもつた模型はありません。

ただ、後藤新平展覧会がその後郷里の水沢に回るとい

ことを書いておりました。彼は、もともと全面買取方式でやろうとしたんです。これをすべて全面買取で、道路を全部造つて、適正な価格でもう一度売り渡すということをやりまして、地主には儲けがないわけでありまして、そういうことを考えた。

実は、後藤新平はそういうことを今までやってきていたんです。それを。台湾でもやりましたし、満州でもやってきました。ですから、彼には経験があつたわけです。台北の東側の主要な部分、高雄の南側の主要な部分は、彼の計画の下に造られております。満州でも大連とか奉天(今の瀋陽)のような都市は、彼が総裁としてビジョンを描いて造らせているわけです。

その経験があつたので、彼は本場に短期間のうちに、焼け野原になつた東京を見たときに、ビジョンを湧かせることができたわけです。ちゃん

ことで、水沢に行っているの、このあたりの模型はひとつとしたり今はないかもしれませんが、これは、先ほどこちらに入りました墨田公園のところでも五〇〇分の一の模型を、実は中心部だけで、どうも九メートル角の巨大な模型があつたようなんです。あまりにも大きすぎるということ、真ん中だけありますが、これでも立派なものです。

これは、今回の展覧会のために修復してもらいましたが、修復した人たちが驚いていました。これは、建物が全部鉛製です。最近では、プラスチックのようなもので簡単に造りますが、鉛の鑄型で造りますが、鉛の鑄型で造るんです。すべて精巧というわけではなくて、住宅の細かいところは、六く七種類の組み合わせですが、重要なものは非常に細かく復元してあります。

ちよつと分りにくいです。東京駅はここですね。こ